
七度目の転生

東荻原疾風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七度目の転生

【Nコード】

N9941X

【作者名】

東荻原疾風

【あらすじ】

転生、それは前世の記憶を受け継ぐこと？自分の意識が他の器に入ること？俺にはわかんねえ。けど、一番大事なのはそんなことじゃないと思う。これは作者の自己満足ですしかも不定期更新。そんなでも良い人はどうぞ。注・これは最強形だと思います。

転生ってつらい？楽しい？

「次は転生できるのかな」

俺はふと思った。

入ってのは転生する事が出来るのかもしれない。

逆に、できないかもしれない。

何を言ってるのかと思うかもしれないけど、実際そうなのだ。

だって、転生した人が帰ってくるわけじゃないし、転生したといってもおそろく、いや、絶対に誰も信じない。

つまり先ほどの転生できるかできないかは『わからない』が正解だ。ただ、俺の台詞に疑問を持つ奴もいるかもしれない。

次、ということは今までに転生したことがあるということだ。

俺は今までに六回転生した。

転生する前の始めて生まれたときは二〇〇一年の日本、一度目の転生は、おそらく戦国時代、二度目は剣と魔法の世界、三度目は太平洋戦争中の日本、四度目は錬金術の世界、五度目は光線銃やら宇宙戦争やらのSFの世界、そして六度目の今が二〇四五年の日本。

今考えると日本多いな。俺は最初の世界こそただの学生だったが、がんで死んだ直後、刀やら槍やらが飛び交うまさに乱戦の戦場に放り出された。この場合これは異世界トリップなのか？いやタイムスリップか。

そこで俺は初めて命のやり取りを見て、学んだ。そこでは剣、槍、

弓、鉄砲など他にもとにかく戦うすべを磨いて必死に生きた。けど不意打ちされて死んだ。かなり有名で『最強』とかいわれたのにな。次は剣と魔法の世界。どんな名前だったかは覚えてない。また転生したことに驚いたからな。

ここではちゃんと母から生まれた。なんか俺は生まれつき魔力が多くて家族以外から嫌われてた。後々知ったが、一番強かったときの俺の魔力は世界を壊せたらしい。

この世界では戦国時代の命のやり取りや武器のことが役立つた。刀は無かったけど、俺の技術に魔法がプラスされて『白銀の戦神』とか言われた。白銀の理由は俺の髪と装備の色から取ったらしい。そんな世界で俺は寿命で死んだ。ちなみに独身で。

三度目は戦争中の日本だったか。あの時は銃の使い方を学べてよかったな。ちなみに他の兵器（砲から戦車、戦艦まで）も使い方が分かった。最期は戦死。少年兵だったよ。

続いて錬金術の世界だが、もう転生には驚かなくなった。ああ、またかみたいな。でもどっかの金髪兄弟やゆびぱっちんで炎出す人みたいなのができて良かった。

他にも銃器が造れた。これまでの戦闘や生きる知識のおかげで『^{アルス・マグナ}黄金の錬金術師』っていわれた。アルス・マグナとかいう思想も地球にもあつたらしいけど（アルス・マグナは人間を超え神に等しい存在になる思想のことらしい）、この世界ではそれを黄金の錬金術師と呼ぶんだと。

嫁さんほしかったな。近づいてくるの金目当ての女ばっかだった。結局最期は自殺した。いろいろうるせえから。中年でした。

五度目はSF。文字通りSF。俺はどっかの星の辺境の地で生まれ（人の姿でよかった）。そこで今度は静かに死のうと思ひ、普通

に暮らしてたら、なんか来た。

宇宙の海賊とかいったな。空は空賊、山は山賊、海は海賊なんだから、宇宙賊でよくね？とか思った。まあ仕方ないんで今までの経緯と知識で撃退。

そしたらそこにどっかの星の姫様が乗っててそのままスカウト。なんか最後のほうは『英雄』とかいわれた。ちなみに光の剣（あえてビームセイバーと呼ぼう）は、かなりの切れ味というか焼き切ってたね。

光線銃も弾けてどこかの黒いマスクさんみたいな気分だった。

そこで俺は姫様と結婚。初めて愛が分かって幸せだった。ちなみに最期はヤンデレした姫様と心中。ヤンデレ好きだったから超幸せだった。理由は町で出会った子と俺が無理やり三角関係に持ち込んだ。いやーめっちゃくちゃ幸せだった。

六度目は科学が更に発達していた日本。つまり今。

俺は今十八。病院のベットで横になってる。理由は改造実験の反動で出た不治の病。そう俺は改造されたのだ。まあ、痛いこともされただけどそんなの今までにあった事に比べれば、気にも障らない。

俺は殺戮兵器の実験体として造られた。親はこのプロジェクトの責任者とその人の戦争で殺された夫。二人のの遺伝子で俺は造られた。生まれたばかりの頃からいろいろされた。記憶や意志があった俺は今度は改造実験かと軽く思っただけだった。

でもこのプロジェクトの責任者、つまり母さんの俺への愛情がやばい。痛いことされた後には、必ずごめんねといい、俺の傍にいたい、異常なまでにやさしくしてくれた。俺が父さんの代わりじゃないというところ、当たり前じゃない！あなたはあの人と私の子。だから最強で何でもできる神に等しき人間しようとしているの。あなたが嫌ならすぐにやめるし、人里はなれた場所にいく」といった。ヤンデレ最高。

けど俺は、改造を受け入れた。そこで俺は更に知識と戦闘技術、生活スキルを身につけた。そこで改造も完成したけど、母さんが戦場に出すために造ったんじゃないといい、今は母と二人暮らし。なんでも殺戮兵器は、他の奴らを納得させるための名目だったらしい。一応何回かは戦場に行った。母さんの立つ瀬ないし。

そして今、不治の病でベットの上。今、母さんが血眼になって直す方法を見つけている。ちなみに母さんは見た目二十代の美人。実際は三十九。にしても二十一で俺の改造始めるあたり天才だよな。俺と母さんは親子であり恋人であり夫婦だ。何故かと言うと完全にヤンだ母さんが十五のとき手を出してきたから。俺はそれを受け入れた。まあ好きだったし良いかなと。世間には当然ふせてある。

改造された俺はなんとなく死期がわかる。母さんと過ごした五年（改造は十三歳で終わった）は幸せだったし（いろんな意味で）、もういいやという思いだ。

「次は転生できるのかな」

転生ってつらい？楽しい？（後書き）

いやー息抜きに投稿してしまった。

どうも東荻原疾風です。

正体不明も予定を繰り上げ、近々投稿再開しようと思います。

あんた、誰？

なんか俺の前におっさんがいる。

どういうことだ、俺は夢の中であってもそんな趣味は無い。
これは夢なのに、リアルすぎるぞおっさん。

「だれがおっさんじゃ」

「お前だ、お前」

「わしは神じゃぞ」

「そっすか、どうでもいいんで、出てってください。俺はゆっくり寝たいんだ」

だからさっさと出てけ糞爺。

「誰が糞爺じゃ」

心読むなよ。

「わしは神だといっているだろう。ところでこんなことでは驚かんのか」

当たり前だ伊達に七回の人生と六回の転生を味わってねえ。

「そうか、そうか」

何だよ気持ち悪いなあ。俺はもう死んだんだから寝かせてくれよ。

「なんと！自分が死んでると分かるのか！」

まあな、それくらい分かる。

「ならば話は早い。おぬしには、もう一度転生してもらおう」

またか、それが最期なんだな？俺は転生を続けてもう精神がぐたぐたなんだ。

「最後かは分からん、じゃが今回の転生はわしが三つまでおぬしの願いを特典としてつけてやるわ」

本当か、なら

「一つ目は、俺が今まで経験した世界の技、武器、魔法、錬金術、超科学、その他すべてを創造して使えるようにしろ。」

「すべてか、おぬし次の世界で神になる気か。それと何故突然喋りだしたんじゃ？」

「二つ目は」

「無視か」

「『ザ・ヒーロー』
英雄にて主人公』を使えるようにしてほしい」

「ざ・ひーろー？なんじゃそれは」

「これは、俺がすべての世界で考えた末のほしい能力だ。これは、簡単に言えば英雄としての主人公としての、信念、不屈、勇氣、この三つの魂がある限り自分の力を際限なく高め、どんな無理でも、不可能でも無理やり可能にすることができる力だ」

「無敵じゃな。そんなのわしでも勝てんぞ」

「その通り。この力は三つの魂さえ燃やせば、やろうとすれば人を生き返らせることも、神を奴隷にすることも文字通りなんでもできる。逆にこの三つの魂が揺らげば効果は小さくなるし、絶対折れない剣を削っても、脆くなる」

「それなりの弱点はあるということか、それで三つ目は？」

「最後は、たったの五分で良いから、文字通りすべてを、未来も神も異世界すべてさえも見通す眼がほしい」

「分かった。最後については身体的にも精神的にも成長することに持続時間が長くなるようにしておいた。後最後のもう一つ。一度完全に時間いっぱい使った場合、最低でも三倍の時間をかけなければ完全回復できぬからな、時間が少なくてもいいなら途中で回復を止めて使うのもありじゃ」

「了解。ところで回復じゃなくてチャージでいいか。そっちのほうがいいかッコイイ」

「好きにしろ。それでは七度目の転生、逝ってこい」

あなた、誰？（後書き）

これ、書いてて思ったけどかなりチートですね。
正体不明は一週間に一度くらいで更新したいと思います。

王子（俺）の誕生

「おぎやあああああ！」

はい、ただいま生まれました。

「姫様、生まれましたよ。元気な男の子です」

「はあくなんてかわいらしいのでしょうか」

「お、生まれたか」

「はい、あなた。名前は決めましたか？」

名前、とても気になるな。かつこいいのにしてくれよ父さん（たぶん）。

「名前は、ヴァンだ」

「ヴァン・・・良い名ですね」

よかったーそれなりの名前で。

ところでさつき、姫様って言ってたってことは、俺は王子か！

でも、俺って確か、神から三つの力をもらったんだよな。そんな力もあり、更に王子。暗殺される要素や恨まれる要素が盛りだくさんだな。

俺が転生者ってことは、早めに家族に言おうかな。何かされても殺せばいいし。

けど今は身体が睡眠を欲してるから、寝るかな。

王子（俺）の誕生（後書き）

短いすね。

しかしこの小説はこんな感じで書いていきます。

執筆スピードは多少速いかもしれませんが。

それでは次回で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9941x/>

七度目の転生

2011年11月2日02時19分発行